

ロタウイルスワクチン予防接種についての説明書

1 ロタウイルス胃腸炎について

・ロタウイルス胃腸炎は、乳幼児に多く起こるウイルス性の胃腸炎です。ロタウイルス胃腸炎の原因「ロタウイルス」は全世界に広く分布し、衛生状態に関係なく世界各地で感染がみられます。5歳までにほとんどの乳幼児が感染するといわれていますが、最近では5歳以上の年長児や成人が罹患することもあります。

その感染力は強く、一般的な手洗い、アルコール消毒などでは予防が難しいといわれています。

・ロタウイルス感染症の多くは突然の嘔吐に続き、白っぽい水のような下痢を起こします。発熱を伴うこともあり回復には1週間ほどかかります。また、ほとんどの場合は特に治療を行わなくても回復しますが、時に脱水、腎不全、脳炎、脳症などを合併することもあり、症状が重く脱水が強い場合には入院が必要になることもあります。

・日本でのロタウイルス胃腸炎の発症は冬～春に多く、主に生後3～24か月の乳幼児に起こりますが、ピークは生後7～15か月です。生後3か月までは母親からもらった免疫がありますが、初めて感染するときに重症化しやすくなりますので、できるだけ早めにワクチンを最終回まで完了してください。実際にロタウイルス胃腸炎は小児急性重症胃腸炎の原因の第一位で、受診した人の10人に1人が入院するという報告があります。

・ロタウイルスは日本では多数の型が存在し、年や地域によって流行する型は異なります。一度感染しても、一生のうち何度も感染を繰り返すことがあります。ただし免疫ができていれば、感染しても無症状や軽症で済むため、このワクチンは、初めて感染する前に接種を終えておくべきものです。

2 ワクチンの接種方法・副反応

ロタリックスとロタテックについて（経口生ワクチン）

ワクチン名	ロタリックス (経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン)	ロタテック (5価経口弱毒生ロタウイルスワクチン)
接種回数(量)	2回(1.5mL/回)	3回(2mL/回)
接種方法	27日以上の間隔で2回	27日以上の間隔で3回
接種時期	出生6週0日後～24週0日後	出生6週0日後～32週0日後
標準的な接種	標準は生後2か月後から開始 初回接種は出生14週6日後までに終わることを推奨	
副反応	・不機嫌になる、下痢になる(5%ぐらい) ・嘔吐や食欲低下などの胃腸症状、鼻水やせき(1～5%ぐらい) ・発熱する(1%ぐらい) 高熱や、けいれんを伴う場合は、速やかに受診してください。 頻度は稀ですが、腸重積症の発症リスクが上がる可能性がありますので、裏面の症状をよく読んでおいてください。	

3 ワクチンの効果

・下痢・嘔吐・胃腸炎・発熱を伴うロタウイルス胃腸炎を予防することが期待されています。

接種したすべての人がロタウイルス胃腸炎を発症しないわけではありません。発症そのものを7-8割程度予防し、

入院するような重症化は、そのほとんどが予防できるとされています。どちらのワクチンも効果は同等ですので、どちらを選んだとしても、あとから悩む必要はありません。ただし、途中でワクチンを変更することは出来ませんので、1回目に接種したワクチンで決められた回数を最後まで接種してください。

4 予防接種を受けることができない人

- ・明らかに発熱のある方（37.5℃以上）
 - ・重い急性疾患に罹っている方（下痢や嘔吐があるときは延期してください）
 - ・ロタリックス、ロタテック接種後にアレルギーなどの過敏症を起こしたことがある方
 - ・腸重積症になったことがある方、腸重積症の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管疾患がある方
 - ・重症複合型免疫不全（SCID）がある方
 - ・その他、かかりつけの医師に予防接種を受けない方がいいと言われた方
- * **腸重積症**：腸の一部が腸の他の部分に入り込み、腸が閉塞した緊急性の高い病気です。ロタウイルスワクチンの接種の有無にかかわらず、主に0歳のお子さんにかかることがある病気です。（日本では0歳児のみで年間約1000人程度発症）主な症状は、嘔吐を繰り返す、泣いたり不機嫌になったりを繰り返す（お腹の痛みのため激しく泣いたり、不機嫌になったりもしますが、痛みが出たりおさまったりを繰り返すので、症状がない時もあります）。ぐったりとして元気がない、血便が出るなどです。

5 予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなければならない人

- ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患のある方
- ・過去に予防接種後2日以内に発熱のみられた方、また全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ・過去にけいれんを起こしたことがある方
- ・免疫機能に異常のある疾患のある方、またその恐れのある方、免疫抑制をきたす治療を受けている方、近親者に先天性の免疫不全症患者がいる方
- ・胃腸障害がある方

6 接種を受けた後の注意点

- ・重いアレルギー症状が起こることもありますので、接種後少なくとも30分間は安静にしてください。
 - ・接種後に体調の変化や異常な症状がみられた場合に、速やかに医師の診察を受けてください。接種後に下痢、嘔吐、胃腸炎、発熱などの副反応がみられることがあります。
 - ・接種後に腸重積症と思われる症状がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けるようにしてください。なお、国内外でのロタウイルスワクチン発売後の調査から、接種後に腸重積症のリスクが少し増加する可能性があると言われています。接種回にかかわらず接種後（特に1～2週間）は腸重積症の症状にご注意ください。
- 腸重積症で他の医療機関を受診された際は、ロタウイルスワクチンを接種した医療機関にもお知らせください。
- ・ワクチン接種後2週間程度は便中にウイルスが排泄されますが、排泄されたウイルスによって周囲の方が胃腸炎を発症する心配はありませんが、おむつ替えの後などは、いつもより丁寧に手洗いをしてください。
 - ・ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再度接種する必要はありません。

7 副反応が起こった場合

予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れるこ

ともあります。予防接種を受けた後、体調変化が現れた場合は、速やかに接種した医師（医療機関）の診察を受けてください。予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。お住まいの区の保健福祉センターにご連絡ください。国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

大阪市保健所・各区保健福祉センター

令和2年9月